

とく  
徳

ほう  
朋

## 愛の正体

伊藤 元 はじめ



いとう はじめ  
1935－現在  
福岡県生まれ。真宗大谷  
派徳蓮寺前住職。

さて、私たちが当てにしているのは愛や思いやりですが、その正体を知っていなければいけません。愛というものは、ずっと育てられないとその本質を失うのです。

具体的な例を挙げますと、「人類愛」という言葉がありますね。人類を愛しましょうということですが、人間として生きていく上で大事な事です。しかし、この「人類愛」は「国家愛」とは矛盾します。人の命は尊いといいますが、現在、内戦によってアラブ諸国で多くの難民が発生しており、何もしなければ多くの人が死んでしまうので、助けようと立ち上がった国がヨーロッパにはたくさんあります。ところが、どんどん難民が入ってくると、自分の国の治安や経済に支障をきたすようになります。難民による犯罪も増えて、雇用も奪われ、自国民の生活が圧迫されるのです。(中略) このように人類愛と国家愛は矛盾してしまうのです。人類愛を否定する人はいませんが、このケースでは自分の国を愛するということと両立しないのです。多くの場合、自国を愛する方を選ぶのではないのでしょうか。そこでは人類愛という精神が薄らいで消えていきます。(中略)

もう一つあります。「家庭愛」と「自己愛」もまた矛盾します。家族の為に、自分のしたいことをやめて家庭サービスをすることもありますが、最後は自分を第一に考えます。孫がかわ

いいといっても、時間が空いていたら精一杯しますが、それ以上はしません。

この愛というものの正体は何かというと、それは「エゴイズム」ということになるのです。エゴイズムということは「自我」です。そういうことを知っておかなければいけないと思うのです。「愛」を初めから否定することはできませんが、人間がもっている愛というものの中身は何かということです。だから忘れてはいけないのは、いくら優しい愛であっても、いつでも「自我の心」に転落してしまうことがあるということです。



(『ご法事を縁として』)

●愛とはとても聞こえがいいものですが、どこまでもそこには私たちの都合と言うものが混じっているのではないかと思います。 哲弘 拝



この「徳朋」は仏教を抛り所としている方々の言葉に直に触れ、この身で感じる事を願いとして毎月作成しています。多少難しい表現もあるかと思いますが、気にせず読んでみて下さい。